

“小江戸” 川越の散策

散策コース : 歩行距離 約7Km、 歩行時間 約2時間

本川越駅 →(15分) 1. 中院 →(10分) 2. 仙波東照宮 → 3. 喜多院・五百羅漢 →(2分) 4. 成田山川越別院 →(20分) 5. 三芳野神社 →(3分) 6. 本丸御殿 →(12分) 7. 川越氷川神社 →(12分) 8. 太田道灌像 →(8分) 9. 菓子屋横丁 →(5分) 10. 養壽院 →蔵造りの町並み(25分) /11. 蔵造り資料館) 12. 時の鐘・薬師神社 13. 埼玉りそな銀行) →(2分) 14. 蓮馨寺 →(3分) (15. 熊野神社) →(3分) 16. (小江戸蔵里) →本川越駅

1. 中院 | 喜多院エリア

中院は天長7年(830年)に無量寿寺として建立され、無料寿寺の開山 円仁慈覚大師が薬用に茶の実を京より携えて栽培したのが狭山茶の始まりとされていて「狭山茶発祥之地」の碑があり、島崎藤村の義母加藤みきの墓があることから藤村との縁も深い寺院として知られています。

2. 仙波東照宮 | 喜多院エリア

仙波東照宮は、喜多院の大堂にあった東照宮が遷祀されて現在の仙波東照宮となりました。仙波東照宮の建物は、徳川将軍家の影響が強く拝殿前の手水鉢や狛犬は江戸城から移されたものとなっています。

3. 喜多院 | 喜多院エリア

喜多院は、天長7年(830年)に創建された無量寿寺にあった北院・中院・南院の3つの院のうちの仏蔵院北院で、天海僧正が住職であった慶長17年(1612年)に喜多院と改められました。寛永15年(1638年)の川越大火で山門と経蔵以外の伽藍を焼失しましたが、3代将軍徳川家光が復興を命じて、江戸城紅葉山の別殿を移築して客殿、書院等にあてたことから、徳川家光ゆかりの家光誕生の間や春日の局化粧の間が喜多院に残されることになりました。

五百羅漢

喜多院の五百羅漢は、川越北田島の志誠の発願により、天明2年(1782)年から文政8年(1825年)までの約50年間にわたって建立されたもので、533体の羅漢像と釈迦如来、文殊菩薩など528体が鎮座しており、日本三大羅漢の一つに数えられています。

4. 成田山川越別院 | 喜多院エリア

成田山川越別院は、不動明王の霊徳を広めるために全国を巡歴していた石川照温師を、師を慕う川越の人々が廃寺となっていた本行院を嘉永6年(1853年)に復興したのが始まりで、明治10年(1877年)に独立した寺院から成田山の別院となり、お寺の名も本行院から成田山川越別院本行院となりました。

5. 三芳野神社(お城の天神さま) | 博物館エリア

三芳野神社は平安初期に創建されたと伝えられ、旧川越城の天神曲輪に位置していることから「お城の天神さま」と呼ばれるようになりました。童謡「通りゃんせ」になり、天神さまへの参道が歌詞の舞台になったと伝えられています。

6. 川越城本丸御殿 | 博物館エリア

川越城本丸御殿は、弘化3年(1846年)に火災に遭い焼失してしまったために、新しい御殿を造る事になり建てられたものです。江戸初期に本丸には本丸御殿はあったものの、それは将軍がやって来たときのためのお成り御殿で、川越城主の御殿は二の丸にあったと考えられています。

7. 川越氷川神社 | 博物館エリア

川越氷川神社は今から1,500年も昔の欽明天皇2年(541年)に創建されたと伝えられるお社で、川越城下の総鎮守とされて歴代領主や藩主をはじめとした多くの人々の崇敬を受けて来ました。良縁祈願の

「あい鯛みくじ」はおみくじを釣りあげて、良縁を釣り上げて持ち帰るというユニークなおみくじです。

8. 太田道灌像 | 蔵の町エリア

太田道灌像は、自らが長禄元年（1457年）に築城した川越城の大手門があった場所にあり、太田道灌を川越城が城下町として発展した礎を築いた川越の始祖と仰ぎ、昭和47年（1972年）に川越市制50周年の年に建てられたものです。

9. 菓子屋横丁 | 蔵の町エリア

菓子屋横丁は明治初期に養寿院の門前町として栄えていた元町で、鈴木藤左衛門が菓子を製造して売ることになったのがはじまり。菓子や横町には20数軒の店がありましたが、6月の火災で7件が焼失してしまいました。

10. 養寿院 | 蔵の町エリア

養寿院は寛元元年（1243年）に河越太郎重頼の曾孫となる河越経重が開基し大阿闍梨円慶法師が開山しました。養寿院には、川越経重が新日吉山王社に納めた国の重要文化財に指定されている銅鍾や河越太郎の墓と伝えられる五輪塔、川越城の七不思議の一つとされている堀川夜討の戦乱の場面をえがいた一雙の屏風画のうち酒井重忠が寄進した半双があります。

11. 川越市蔵造り資料館 | 蔵の町エリア

川越市蔵造り資料館では、店蔵、煙草蔵、文庫蔵や住居部分などが公開されていて、小江戸川越の蔵造り建築を見ながら知ることが出来るだけでなく、元煙草卸商の店ということから煙草に関する資料や川越の火消しの歴史などの資料が展示されており、川越商人の暮らしや小江戸川越の町について知ることが出来ます。

12. 時の鐘 | 蔵の町エリア

時の鐘は、蔵造りの街並みと共に小江戸川越のシンボルです。およそ400年前に川越酒井家二代酒井忠勝が建てたことに始まると言われております。現在の時の鐘は4代目となっています。

薬師神社

薬師神社は、小江戸川越のシンボルとなっている時の鐘の下をくぐった先にあるお社。明治26年（1893年）の川越大火では時の鐘と共に焼失しましたが、翌年再建された病氣平癒、特に眼病に御利益のあるお社です。

13. 埼玉りそな銀行川越支店 | 蔵の町エリア

大正7年（1918年）に建てられた旧第八十五銀行本店本館で、今でも埼玉りそな銀行川越支店として営業されている現役の銀行です。

14. 蓮馨寺 | 蔵の町エリア

蓮馨寺は天文18年（1549年）に川越を領した小田原北条氏家老大道寺政繁の母が建立し、後の増上寺第十世法主となった存貞上人が開山となった寺院がはじまり。蓮馨寺の祈願所である呑龍堂の正面には、参拝者がその身体に直接接触すると病気が治り、頭に触ると頭が良くなるとされ、日本では「なで仏」として知られている「おびんずるさま（賓頭盧尊者）」が鎮座しています。

15. 川越熊野神社 | 蔵の町エリア

川越熊野神社は天正18年（1590年）に建立されたお社で、開運と縁結びに御利益があることで知られており、境内には熊野神社だけでなく大鷲神社、秋葉神社、巖島神社、加祐稲荷神社があります。川越熊野神社の社門紋である八咫鳥日本サッカー協会のシンボルとなっています。

16. 小江戸蔵里 | 川越駅エリア

小江戸蔵里は、小江戸川越の街中に残された国の登録有形文化財に指定されている3つの酒造蔵を、明治蔵は「おみやげ処」、大正蔵は「まかない処」、昭和蔵は「くら市場」として生かした施設です。

出典：<http://find-travel.jp/article/11984>